

## 定期報告（ウルグアイ内政・外交：2021年8月）

### 1 ポイント

#### 【内政】

- 3日、サルトリ上院議員は暗号通貨に関する法案を提出。
- 7日、国民党大会でイトゥラルデ臨時総裁が新総裁に選出。
- 10日、テレワーク法の成立。
- 16日、ファイザー製ワクチンによる3回目の接種が開始。
- 20日、カルドソ観光大臣の辞任。
- 23日、ビエラ新観光大臣の就任。
- 26日、政府は入国制限の例外規定を更新し、9月1日からウルグアイ国内に不動産を所有するワクチン接種済みの外国人（配偶者または内縁のパートナー、第二親等までの家族を同伴可）の入国を許可。

#### 【外交】

- 5日～6日、ウルグアイ・米貿易投資枠組み協定（TIFA）の枠組みで第9回二国間協議会がモンテビデオで開催。
- 12日、ウルグアイ・アルゼンチン間でメルコスールの電子署名相互認証協定が発効。
- 13日、ラカジェ・ポウ大統領はフェルナンデス亜大統領と非公式会合を実施。
- 23日、ウルグアイ・トルコ税関相互支援協定に署名。
- 24日、在アンカラ・ウルグアイ大使館の開設を発表。

### 2 本文

#### 【内政】

#### 1 暗号通貨の使用及び取引を規定する法案の提出

3日、国民党のサルトリ上院議員は、国内での暗号通貨の使用を規定する法案を議会に提出した。同法案は、仮想通貨を支払い手段として合法化し通貨として認めることで仮想通貨の生産や取引に安全性を付与することを目的としている。サルトリ上院議員は、仮想通貨の生産・販売から派生するビジネスにおける明確なルール、法的・財政的な安全性を確立することで、投資を促進し投資家を保護することを目指している旨述べた。

#### 2 テレワーク法の成立

10日、上院は2020年4月にコロラド党のカルメン・サンギネッティ議員が提出したテレワークを規定する法案について、下院で行われた修正案を承認した。野党拡大戦線（FA）は、規制の必要性自体には賛同するものの、同法はテレワークを曖昧に法制化しているとして支持しなかった。一方、ミエレス労働社会保障大臣は、労働検査の実施方法や労災認定といった複雑な問題を解決する必要がある旨指摘した。

#### 3 国民党新総裁及び執行役員の選出

7日、国民党大会がバーチャル形式で実施され、2020年5月11日から臨時総裁を務めていたパブロ・イトゥラルデ氏が総裁に選出された。また、執行役員14名が選出された。

#### 4 拡大戦線（FA）2人目の臨時コーディネーター

7日、拡大戦線（FA）執行部は、党内選挙までの期間、2週間前に任命されたエルリッチ臨時コーディネーターに加えて新たにマリア・ホセ・ロドリゲス氏を臨時コーディネーターに任命する旨決定した。

## 5 連立与党調整委員会の設置

12日、連立政権を構成する5政党は、議会での優先事項を明確にし、連立政党内の相違点を解決し公の場での意見の相違を避けることを目的に、デルガド大統領府長官を中心とした調整委員会を正式に設置した。同会議体は少なくとも月1回の定例会議を開催する予定。

## 6 港湾規制機関（Ursep）の設置に関する法案の提出

ベルギーの多国籍企業 Katoen Natie 社との間で、モンテビデオ港のコンテナターミナルを50年間延長する契約が締結されたことが問題となったことを受けて、19日、政府は港湾部門の強化、規制及び管理を目的とした港湾規制機関（Ursep）を設置する法案を発表した。同規制機関は、通信サービス規制機関（Ursec）やエネルギー・水道規制機関（Ursea）等の他の規制機関が担っている役割と同様に、政府及び港湾公社（ANP）に技術的かつ公正な助言を行う他、港湾サービスを提供する国営及び民間の事業者による法的・技術的基準の遵守を管理する。

## 7 観光大臣の交代

ア 20日、カルドソ観光大臣は、ペレス・バンチェロ前観光局長の解任後に公となった広告契約の直接受注における一連の不正疑惑を受け、観光大臣を辞任した。

イ 23日、コロラド党全国執行委員長（党代表）を務めるサンギネッティ元大統領はコロラド党代表等同席のもと自宅で記者会見を開催し、タバレ・ビエラ上院議員が新たに観光大臣に就任する旨を発表した。同記者会見後、ビエラ新観光大臣は大統領府でラカジェ・ポウ大統領と面談し、就任証明書に署名し正式に大臣に就任した。同新大臣はサンギネッティ元大統領の上院議席に就いていたが、大臣就任に伴い、コロラド党の別の党派である「リスト15」のラウル・バッジエ第3代理議員が上院議員に就任した。

## 8 新型コロナウイルスに関する主な動き

### （1）ワクチン関連

#### ア 予防接種進捗状況

（ア）10日時点で、国民の73%が1回目、65%が2回目のワクチン接種を終了。

（イ）24日時点で、国民の70%（2,480,237名）が2回目のワクチン接種を終了。

#### イ 3回目の接種の開始

（ア）3日、厚生省はシノバック製ワクチン接種完了者に対するファイザー製ワクチンによる3回目の接種の登録受付開始を発表した。厚生省は、3回目の接種には最後の接種から90日以上が経過している必要がある他、中程度及び重度の免疫不全患者で、①ファイザー製ワクチンもしくはアストラゼネカ製ワクチンで予防接種プロセスを完了した者に対してはファイザー製ワクチンによる3回目の接種（追加接種）、②シノバック製ワクチンで予防接種プロセスを完了した者に対してはファイザー製ワクチンによる完全な接種（2回接種）が行われる旨を発表した。

（イ）16日、希望者（シノバック製ワクチン接種完了者）に対するファイザー製ワクチンによる3回目の接種が開始。

#### ウ ワクチン到着

（ア）5日、ファイザー製ワクチン203,580回分が到着。

（イ）12日、ファイザー製ワクチン153,270回分が到着。

（ウ）19日、ファイザー製ワクチン145,080回分が到着。

(エ) 27日、ファイザー製ワクチン148,590回分が到着。

エ COVAX ファシリティを通じて購入したワクチン

(ア) 10日、デルガド大統領府長官は、COVAX ファシリティの枠組みで新たなワクチン供給の連絡を受けるも、ウルグアイで使用されていないワクチンであり計画に沿わないため断った旨明らかにし、同枠組みによるワクチン供給は非常に遅く計画性がないとして批判した。

(イ) 26日付報道によると、政府はCOVAX ファシリティの枠組みで購入していたワクチンを今後利用しない旨決定し、汎米保健機構 (PAHO) に対し、割当分を寄付する手続きを開始した。

オ ワクチン接種による副反応

10日、厚生省はワクチン接種による副反応について、2021年2月27日から7月15日までの期間にウルグアイ国内で実施されたワクチン接種4,466,346回のうち、副反応は1,645件 (0.037%) 確認され、そのうち重篤な副反応 (主に静脈血栓症) は9件 (0.0002%、100万回に2回の割合) 確認された他、ワクチン別の副反応の割合はシノバック製ワクチンで0.02%、ファイザー製ワクチンで0.06%、アストラゼネカ製ワクチンで0.06%であった旨発表した。

(2) 変異株

ア ウルグアイ由来の変異株 (P.6) の検出

2日、監視作業グループ (GTI) は、ウルグアイ由来の変異株 (P.6) の検出を発表した。GTIによると、同変異株はモンテビデオで発生し、2020年11月から2021年3月にかけてウルグアイ国内において優勢であったが、その後、ガンマ株 (P.1: ブラジル株) による感染拡大により置き換えられ、4月下旬以降は確認されなくなった。

イ デルタ株の侵入状況

16日、監視作業グループ (GTI) は、6月25日から8月5日の間にウルグアイに入国し感染が確認された者から採取された300の検体のうち、150以上の検体からデルタ株が検出された旨報告した。厚生省関係者によると、デルタ株による「つながりのない」症例 (経路が特定できない症例) はまだ確認されていない。

(3) 国境及び国内制限措置

ア 段階的な国境再開

8月9日、ラカジェ・ポウ大統領は9月1日から段階的に国境を再開する旨発表した。第一段階として、9月1日からウルグアイに不動産を所有しており予防接種が完了した外国人、第二段階として、11月1日から予防接種を完了した全ての外国人に対して、PCR検査の陰性証明を提示することで入国を許可する旨発表した。

イ 出入国制限措置に関する政令の更新

政府は8月26日付政令により入国制限の例外規定を更新し、9月1日から所定の手続きを行いウルグアイ政府の許可を取得することで、ウルグアイ国内に不動産を所有するワクチン接種済みの外国人 (配偶者または内縁のパートナー、第二親等までの家族を同伴可) の入国を許可した。

(4) その他

ア 感染状況

25日、ウルグアイでの1週間あたりの感染者数が直近9か月間で最も低い数値を記録した。

イ サッカーの有観客試合の再開

(ア) 4日、スポーツ庁は衛生規則及び収容人数制限を遵守した上で20日からサッカーの有観客試合再開を許可。

(イ) 9日、政府は18日のコパ・スダメリカーナ (南米杯) 準々決勝戦について、観

客5, 000人を上限に例外的に有観客試合を許可する旨発表。

(ウ) 18日、524日ぶり(2020年3月13日の国家衛生緊急事態宣言以来)にサッカーの有観客試合が開催。

(エ) 9月1日、パウサ・スポーツ庁長官は、9月10日からスタジアムの収容人数40%を上限にサッカーの有観客試合を認める旨発表。

ウ 社交イベントの再開

(ア) 9日、政府は、24日の「Noche de la Nostalgia」(独立記念日前夜)について、厚生省が定める衛生規定等を遵守した上で、認可を受けている会場でのイベント実施を許可する旨発表。また、同24日以降、認可を受けている会場での結婚パーティーや15歳の誕生日パーティー等のイベント再開を同様に認める旨発表。

(イ) 13日、厚生省は認可を受けている会場におけるイベント再開に向け23日から適用される、開催時間や収容人数等を定める新たな規定を発表。

## 【外交】

### 1 ウルグアイ・米貿易投資枠組み協定第9回二国間協議会の実施

8月5日から6日にかけて、ウルグアイ・米貿易投資枠組み協定(TIFA)の枠組みで第9回二国間協議会がモンテビデオにおいて対面式で実施された。バイデン米政権が南米地域の貿易相手国と行う初のTIFA会合となった今次会合は、フランコリーノ外務省経済総局長及びワトソン米国通商代表補(西半球担当)が統括し、主に農業、知的財産及びサービス分野における貿易・投資の機会及び課題について幅広く議論された他、労働基準のあり方、漁業・林業の持続可能な運営を含む環境保護の各国経済分野における重要性についても取り上げられた。両代表団は、漁業補助金に関する世界貿易機関(WTO)の交渉において意義ある結果を出すという共通の希望を再確認し、強制労働の問題についても意見交換を行った。また、両国は経済・貿易関係強化の基礎となる通商規則を反映した新たな議定書及び行動の交渉を推進することで合意した。

### 2 メルコスールの電子署名の相互認証協定の発効

12日、ウルグアイ・アルゼンチン間でメルコスールの電子署名相互認証協定が発効した。同協定発効によりウルグアイ及びアルゼンチンの個人が発行した電子署名が有効と認められ、右により両国政府、企業、市民間での迅速かつ安全な電子文書交換が保証される。ブラジル及びパラグアイについては、各国の批准書提出から30日後に発効する。

### 3 ラカジェ・ポウ大統領のアルゼンチン訪問

13日、ラカジェ・ポウ大統領は大統領就任後初めてアルゼンチンを訪問し、フェルナンデス亜大統領と非公式会合を実施した。同会合には両首脳その他、ブスティージョ外務大臣、ジャニェス亜大統領夫人、ソラー亜外務大臣が同席した。両首脳の対話では、両国の共通の関心事項である河川の航行可能性、国境の状況や、最近のメルコスール会合でウルグアイがメルコスール域外国との協議を開始する意向を示したことを考慮して、メルコスールの将来等が取り上げられた。また、複数の地域的な議題についても話し合われた。今次会合において、両国はモンテ・カセロス(アルゼンチン)とベジャ・ウニオン(ウルグアイ)の間に橋を建設するため、ラテンアメリカ開発銀行(CAF)からの融資獲得に向け協働することで合意した他、ウルグアイは、フェルナンデス亜大統領が以前から目指しているラテンアメリカ・カリブ諸国共同体(CELAC)の議長国としてアルゼンチンを支持することを約束した。

#### 4 ブスティージョ外務大臣の欧州訪問

##### (1) アルメニア訪問

ア 16日、ブスティージョ外務大臣は、パシニャン・アルメニア首相、同国外務大臣、経済大臣との一連の会談を実施した。パシニャン・アルメニア首相との会談にて、ブスティージョ大臣が在アルメニア・ウルグアイ総領事館を大使館に格上げする旨述べたのに対し、パシニャン首相はモンテビデオにアルメニア大使館の迅速な開設を約束した。

イ 17日、ブスティージョ外務大臣はハチャトゥリアン・アルメニア・ハイテク産業大臣と会談した。同会合では情報技術及び政府活動のデジタル化に焦点が当てられた。

##### (2) ジョージア訪問

20日、ブスティージョ外務大臣はザルカリアニ・ジョージア外務大臣と会合を実施し、二国間関係の深化を提案した。1994年の外交関係樹立以来初となったウルグアイ外務大臣訪問を機に、両外務大臣は貿易・経済関係の将来について協議した。また、ガリバシヴィ・ジョージア首相とも会談を行った。

##### (3) トルコ訪問

###### ア 企業との会合

(ア) 8月21日、ウルグアイの外務大臣として初めてトルコを公式訪問したブスティージョ外務大臣は、トルコ航空のビラル・エクシ最高経営責任者ほか幹部等と会合を実施した。同会合では、両国の協力関係を強化し、トルコ航空の就航都市にモンテビデオを加える計画に取り組むという相互の関心が明らかとなった。

(イ) 同21日、ブスティージョ外務大臣は、トルコ海外経済評議会 (DEIK)、独立企業家・実業家協会及びイスタンブール商工会議所との会合を実施した。同会合ではウルグアイ商工会議所と DEIK の間で二国間貿易協議会の設置のための枠組み協定が署名された。

###### イ 税関相互支援協定署名

23日、ブスティージョ外務大臣及びムシュ・トルコ貿易大臣は、ウルグアイ・トルコ税関相互支援協定に署名した。両大臣は二国間貿易及び投資促進の多様化に向けた具体的な取り組みを評価した他、2009年に発効した二国間協定である経済技術協力協定の第1回共同経済委員会を11月にモンテビデオで開催することで合意した。

###### ウ 外相会合

24日、ブスティージョ外務大臣は、チャヴシュオール・トルコ外務大臣と外相会合を実施し、政策協議メカニズムの設置に関する了解覚書及び両国の外交学校間の協力協定に署名した。また、在アンカラ・ウルグアイ大使館の開設が発表された。同会合で、両国は現在交渉中の投資協定及び租税条約の締結に向けた取り組みを加速させることで合意した他、貿易交渉に関しては、貿易交流の可能性を明確に確認できる段階や分野を定義するため事前協議を開始することで合意した。

##### (4) スペイン訪問

ア 27日、ブスティージョ外務大臣は、アルバレス西外務・EU・協力大臣と会合を実施し、両国の優れた二国間関係のあらゆる側面を詳細に検討した。また、イペロアメリカの現実と世界情勢に関する多くの問題について意見交換を行った。

イ 30日、ブスティージョ外務大臣はマロト西産業・通商・観光大臣と会合を実施し、パンデミックによって観光業が直面する課題、世界観光機関の次期総会の準備、メルコスール・EU・FTA 交渉締結に関する現状について協議した。

#### 【要人往来】

##### ○往訪

● 13日、ラカジェ・ポウ大統領及びブスティージョ外務大臣のアルゼンチン訪問（フェルナンデス亜大統領との会合）

● 8月14日～9月1日、ブスティージョ外務大臣のアルメニア、ジョージア、トルコ、スペイン訪問

○来訪

特になし。